

「言葉の森」の使い方

読み物の使い方

「もつとたくさんさんの読み物に出会わせたい」という先生方のご要望から、各学年一つずつ読み物を入れました。『聞き耳ずきん』（三上）を例に、三つのタイプの扱い方を紹介します。

1 教科書本文でつけた力を生かす

「読みの力」を使って

一人読み

『三年とつげ』（三上）の「たいせつ」（63ページ）で学習したお話の「おもしろさの発見」を参考にして、『聞き耳ずきん』では一人読みをさせます。一人読みをもとに交流すること、さらに読み深めることができます。

表現の工夫を使って

音読発表会

『きつつきの商売』（三上）で学習した音読の

その際には、場面分けをするために、場や時、出来事、人物の気持ちの移り変わりを読み取るなど、これまでに身につけた「読みの力」を発揮することとなります。



聞き手に分かりやすく

- (1) 言葉のむすびつきを考えて、くぎって読むところとつづけて読むところをくふうしましょう。つぎの文をいろいろにくぎって読み、聞いてみましょう。
 - ・かんばんにききんだお店の名前は、こうです。
- (2) 声の大きさ、はやさ、間をとるところをくふうしましょう。
 - ・大事だと思ふ言葉や文をつたえるには
 - ・ばめんの様子をあらわすには
 - ・登場人物の気持ちをあらわすには

三（上）21ページ「たいせつ」



おもしろさの発見

お話のおもしろさは、いろいろあります。

- ・登場人物——行動や人から
- ・出来事——ふしぎなこと、意外なこと
- ・時代や場所
- ・物語のすじ——場面のうつりかわり
- ・言葉の使い方や書き方、文章の調子
- ・心にのこる言葉や文
- ・絵など

三（上）63ページ「たいせつ」

工夫を生かして、「たいせつ」（21ページ）の「聞き手に分かりやすく」を参考に音読発表会や「語り」をします。

音読発表会のほかに紙芝居や音読劇など、表現方法によって場面分けの必要な活動もあります。

「話す・聞く力」を使って

「地域に伝わる昔話」を見つけよう

「分類」ということ（三上）で学習したインタビューの方法を使って、地域の大人からその辺りに伝わる昔話について聞いたり、分類・整理したりします。日本の典型的な昔話である『聞き耳ずきん』をもとに、似ている話があるかどうか尋ねるなど、質問事項を作ることができます。

2 教科書本文の理解を深める

比べ読み

『三年とつげ』との共通点や相違点を見つけることで、昔話の特徴や、物語の構造を理解させます。教科書本文の理解を深めるために、二つの作品を比べ読みさせるところが発展読書とは異なります。「比べ読み」の観点には、登場人物の性格や役割、出来事（事件）、結果、中心人物の変容などが挙げられます。

3 発展読書の保障

昔話を読もう

『三年とつげ』の発展として、「昔話を読もう」という読書活動を仕組みます。子どもたちに「読もう」と呼びかけているだけでは、読書にはつながりません。楽しい昔話がまずは一つ、全員に保障されている。これが子どもを読書へと誘ったためにも大切なことなのです。

言葉を豊かにする学習材の使い方

単に語彙量を増やすだけでなく、言葉の質を高めたり、広げたり、語感を磨いたりするなど、言語感覚を養うことが大切です。『言葉のおうえんだん』（四下）も、国語の学習と子どもの日常の言語生活とをつなぐ学習材です。

1 教科書本文の学習に関連させる

『いろいろな意味をもつ言葉』（四下）や『言葉遊びの世界』（四下）などの言語教材と関連をもたせたさまざまな学習展開が考えられます。

2 言語生活に生かす

「言葉図鑑」を作ろう

独立した言語単元として「言葉図鑑」を作らせます。自分で設定した場や状況にあった言葉を考えて図鑑にまとめることができます。

例えば、試合でミスをした選手に対し、観客やチームメイトなどそれぞれの立場で「はげまし言葉」をかけている場面、物を壊して「謝り言葉」を言っている場面など、よく見られる生活場面を取り上げることができます。

「子どもたちの言葉がきつい」「表現力に乏しい」といった現状から、言語生活に直結する学習の必要感が高まっています。「あいさつ言葉」「はげまし言葉」「お礼言葉」「謝り言葉」など、場に応じた表現はぜひ取り上げたいものです。

●発展的な学習内容の使い方

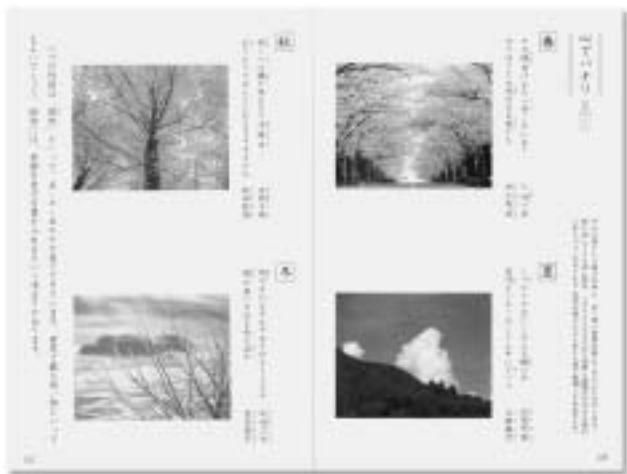
『心でパチリ』（四下）のように、マークがついたものは、言葉を豊かにする学習材の中でも「発展的な学習内容」として子どもの興味や実態に即して、指導者のアイデアで自由に扱うことができます。

文語の扱いは高学年の指導事項であるため、「発展的な学習内容」とされますが、俳句は子どもたちにもなじみ深いものです。先に示した『言葉のおうえんだん』と同様、言語単元と関連させて扱うこともできます。

言語文化に親しむ

「マイ俳句集」を作ろう

写真とともに名句を味わい、季語や音数など、俳句の決まりことを知ります。自分で詠んだ俳句や、俳句カルタなどを通して気に入った名句を「マイ俳句集」にまとめます。このほか俳句日記、句会など、さまざまな活動が考えられます。いずれも俳句を通して言語文化に親しむ態度を育てることができます。



四（下）106、107ページ「心でパチリ」